

まちのできごと

《雑学風味》「猫と魚」

日本の猫は魚を好んで食べますが、欧米の猫はあまり魚を食べないそうです。これは、長い間日本人と生活し、猫の食生活が変化したため、アメリカの猫はコーンやチキンを好むそうです。

地域に活力を見出す

地域活動支援事業

平成20年度から町で実施している「地域活動支援事業」の第1号となる申請が、北部地区よりありました。

今回の申請は、新築した金沢体育館を愛着ある施設にするため、周囲にプランターを設置する活動という事で、プランター、土、苗、水道用コードリール等が補助金の対象となりました。

作業当日は快晴に恵まれ、金沢・上茶屋地区から9名が参加し、プランターの設置・植栽・水撒きを行いました。



丁寧な仕事です

秀逸な作品が揃った

藤里観光写真コンクール

5月26日、総合開発センターにおいて、「いきいき藤里観光写真コンクール審査会」が行われました。

これは、町の観光PRのための各種パンフレットや、ポスターなどに活用する

目的で、藤里町の自然や暮らしを題材に昨年4月から1年間に渡って作品を募集したコンクールです。第1回の今回は、全国30人から72点の応募がありました。

この日の審査は、委員長に日本写真家協会の管洋志理事、副委員長に同協会会員の小松ひとみさん、審査員に当町写真家の鎌田孝一さん、秋田魁新報社の小川浩義能代市局長、北羽新報社の滝田正裕総務局長の5名で行われました。それぞれが気になる作品10点を選出する作業から始まりましたが、2度3度と各作品を見比べ、ピントや構図、藤里町のPRにふさわしいテーマかななどを慎重にチェックし、24点の入賞作品が選ばれました。最優秀賞には、神奈川県横浜市在住の有賀由一さんの作品「秋のフィナーレ」が選ばれ、後日賞金10万円が贈られました。



じっくり作品を選ぶ審査員

委員長から「自然等の美しさ、力強さが表現されているものが目立った。次回は、そこに生活する人々の営みも被写体にして、総合的に藤里町の魅力としたい」と総評が述べられ審査会を閉じました。

ふるさとの味を学ぶ

金沢体育館で料理教室

6月6日、金沢体育館においてグリーンツーリズム事業の一環として、中川ツヨさん（真名子）を講師とした料理教室が開催されました。

この日はあいにくの雨模様でしたが、北部地区から8名が参加し、中川さんの自宅近隣から採取した山椒の葉を使って「山椒味噌」を作りました。この山椒味噌は、焼き魚、きりたんぼ、こんにゃく、タケノコなどに付けるだけで、一つの料理となる調味料として重宝し、味噌の風味と山椒の葉の爽やかな香りが、都会の人をもてなすふるさとの味に最適でした。



上手に出来ました♪

地域できれいな河川を

河川清掃ボランティア

河川敷の汚れや、草木の成長が観光客の目に付くことや、洪水時の災害につながるのではないかとことから、6月